

門下生達は彼の編曲で国際コンクール入賞を果たすなど、バッハ編曲に定評がある高田元太郎本人が、満を持してバッハを中心としたプログラムに挑む。ギターによる無伴奏チェロ、無伴奏ヴァイオリンの定番の響きを覆す編曲センスが聴きどころ。春のコンサートで話題となった高田オリジナル選曲のサンスも披露される。高田といえば、南米ものやロックのCDのイメージが強いが、バロック音楽は実は彼の専門で、南米時代にはバロック合唱団の通奏低音奏者も務めた。数年前の東京オペラシティB→Cではチェンバロの西山まりえとも共演。また最近ではスペイン・バロックのガスパール・サンスの新編曲を紹介するなど、その演奏スタイルは古楽関係や各方面からも注目されている。この秋、必聴のコンサート。

## Gentaro Takada

高田元太郎

ギターをJ. L. ゴンザレス, A. カルレバロ, E. フェルナンデス他に師事。

日本国内で第4回スペインギター音楽コンクール優勝の他、海外ではアルハンブラ国際コンクール優勝を始め、主要コンクールに上位入賞を果たす。1993年より4年間、ボリビア国立ラパス音楽院ギター科主任教授を務めた後、1997年に帰国。その後精力的に演奏・教授活動を行う。2001年4月、訳書「カルレバロ：ギター演奏の原理」を出版（現代ギター社）。2001年ソロCD「ブエノスアイレスの四季」を発表。以降「エンニオ・モリコーネ室内楽作品集」他、サクスの大城正司、タンゴ・ヴァイオリンの喜多直毅らのCDにも参加。またアコースティック・ユニット“といぼっくす”のメンバーとしてCD「あのごろ・・・日本のマエストロたち」「アストロボーイ・鉄腕アトム〜サウンドトラック」「アコースティック YMO」をリリース。2005年秋には第2弾ソロCD「Rocks on the Guts〜天国への階段」を発表。2003年東京オペラシティ主催公演、B→C（バッハからコンテンポラリーへ）に出演。2004年白寿ホール主催公演、リクライニングコンサート「ギターの日」に出演。2007年と2008年にタイ国際ギターフェスティバルに招聘され演奏を行う。

現在、昭和音楽大学ギター科講師。社団法人日本ギター連盟理事。



### コンクール歴

- 1987年 GLC 学生ギターコンクール大学生の部にて第1位
- 1987年スペインギター音楽コンクールにて第1位
- 1987年ホセ・ルイス・ゴンザレス国際講習会におけるコンクールにて第2位（苗場）
- 1988年タレガ国際ギターコンクールにてセミファイナリスト（スペイン、ベニカシム）
- 1988年アルハンブラ国際ギターコンクールにてアランブラ賞（第1位）（スペイン、アルコイ）
- 1989年セゴヴィア国際ギターコンクールにて本選入賞（スペイン、アルムニエカール）
- 1992年アルゼンチンギタリスト会議主催のコンクールにて第1位（アルゼンチン、メンドーサ）
- 1994年マヌエル・ボンセ国際ギターコンクールにて審査員特別賞（メキシコシティ）

# Gentaro Takada Plays BACH

ヴァイス、バッハ、サンスのようなバロック時代の作品はクラシックギターの重要なレパートリーとして昔からよく弾かれている。僕も留学以前から好んで弾いていた。しかし、これらのレパートリーを古楽の演奏スタイルに則って弾くべきだと感じたのはエドゥアルド・フェルナンデスの影響が大きい。彼にはバロックだけでなく、それ以前のミラン、ナルバエスといったビウエラ作品をタブラチュアを読んで演奏することまで教わった。

その後、ボリビアのラパス国立音楽院の教授に就任してから、僕もバロック音楽のつながりはさらに深まった。丁度、この時期ラパス音楽院にポーランド人音楽学者ビョートル・ナヴロットがボリビアに埋もれているバロック音楽を発掘・調査するために滞在していたのである。ボリビアの教会に長い年月を隔てて眠っていたのは、コロンブスの南米大陸発見以降、スペイン人がキリスト教布教のために先住民と一緒に演奏した宗教曲であった。これらのアーカイブをビョートルが現代記譜法に則った楽譜におこし、それを音源とする作業に僕も関わっていた。バロック合唱団の通奏低音パートをギターで演奏したのである。先住民の言語で歌われる賛美歌、南米の強烈なリズムを持つミサ曲。その頃、南米バロック音楽の発掘・演奏は古楽界でセンセーションとなっていて、ボリビアのスクレでは南米バロック音楽祭が開かれて世界各国のバロック・アンサンブルがボリビアに集まり、僕もこのフェスティバルに演奏で参加した。この経験を経て、僕のバロック音楽に対する考え方は180度変わった。

今回、バッハとともにガスパール・サンスの楽曲をとりあげるのは、今年がサンス没後300年のアニバーサリーであるからだ。サンスの曲たちはバロック・ギター用のタブラチュアとして残されているのだが、クラシックギターのレパートリーとしてはイエベス編の「スペイン組曲」がスタンダードで、イエベスが選ばなかった楽曲はクラシックギタリストに演奏されることはほとんどなかった。しかし、古楽界では上記のような理由で、サンス、ムルシアといったスペイン・バロック音楽に対する演奏解釈がかなり変わってきている。南米バロックの影響である。特に、ムルシアの未発見のタブラチュアが数十年前にメキシコで発見され、その内容が原初の南米フォルクローレのようなものどわかってから、スペインのバロック音楽を民俗音楽的に演奏するグループも増えてきている。

ギタリスト達にとっては崇高な、気高い音楽として考えられているバロック音楽。しかし南米でギターを学び、南米民族音楽やタンゴを演奏し、ロック・ポップスをも演奏する高田元太郎だからできるバッハ無伴奏作品の解釈やサンスの演奏があるのではないかと？ バッハ無伴奏曲の編曲も、従来のクラシックギター用アレンジとは一味も二味も違う部分を味わっていただければと思う。

高田 元太郎

[www.altofield.co.jp](http://www.altofield.co.jp)

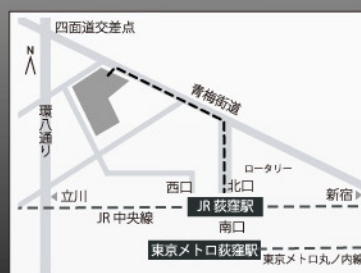
## アルトフィールド音楽教室

世界中のプロギタリストが身に付けているカルレバロ・テクニックを日本で唯一カルレバロ本人から伝授された高田元太郎と、その門下プロ集団によるギタースクールです。年齢、楽器の経験は関係なく、初心者からプロ志望者まで幅広く教えています。一緒に楽しくギターを弾いてみませんか？

体験レッスン・入会についてのご相談は [info@altofield.co.jp](mailto:info@altofield.co.jp) までお問い合わせください。

「社団法人日本ギター連盟」公認ギター教室  
文京区小石川2-1-2-B101 TEL: 03-3813-0394  
(東京メトロ後楽園駅、春日駅・徒歩1分 文京シビックセンター斜め向かい)

[www.altofield.co.jp](http://www.altofield.co.jp)



杉並公会堂 小ホール

東京都杉並区上荻 1-23-15

TEL: 03-3220-0401

JR 中央線・東京メトロ丸の内線  
荻窪駅北口 徒歩7分